

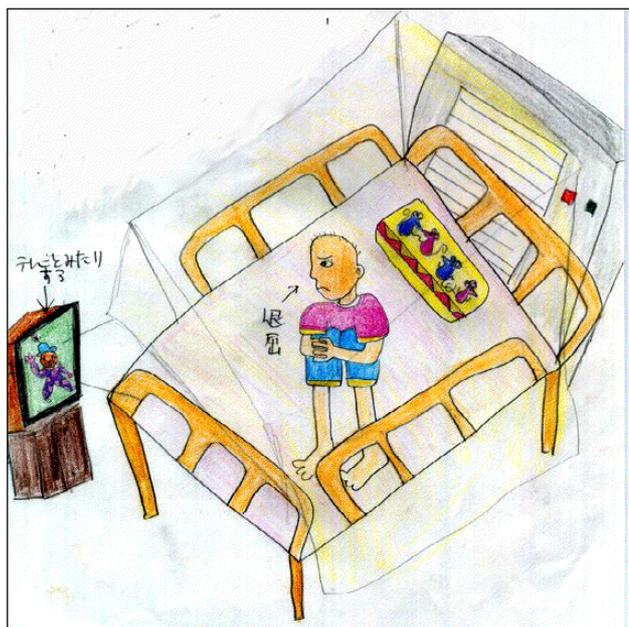
おわりに

「教室でいちばん重要なのは何でしょうか。意欲にあふれる生徒の間に入って教える優秀な教師です。教師と生徒の間を引き離すようなものは、教育ビデオであろうがマルチメディア・ディスプレイであろうが、あるいはEメール、テレビ、コンピュータであろうが、みな問題です。」

インターネットの創始者であるクリフォード・ストール氏の言葉である。

教育の場において、ICTの使い方を誤ってはならない。ICTは、教師と児童生徒、児童生徒同士、また、学校と家庭や地域、外部のサポーター、つまり人と人の「間」を「つなぐ」ためにこそ活用されるべきである。

入院や自宅療養中の病気療養児は、閉ざされた空間での生活を余儀なくされている。しかし、ICTの有効な活用によって、児童生徒と教師、家族、前籍校の友人等とのつながりをより親密にできることが明らかになった。さらに病気療養児を支える周囲の人々が連携するために、ICTはより一層活用されるべきであろう。



化学治療により、白血球数が低下している。感染防止のため、病室にクリーン・ウォールが設置され、ビニールシートで覆われたベッド上で安静にしていなくてはならない。

この状態が、1週間以上続く場合もある。

中学部2年Tさんのイラスト

今も日本のどこかの病院には、ベッド上安静や病室隔離の児童生徒がいる。院内学級の教室にさえ登校できない孤立した状況の児童生徒にこそ、ICT環境が必要である。隔離された病室と外の世界をつなぐ手段として、ICTが普及することを願う。そして、児童生徒と彼らを応援する人々をつなぐ手段として、ICTが日常的に活用される日が早く来ることを願って、筆を置きたい。